



## IM アドレッシングスキームの設定

- [IM アドレッシングスキームの概要 \(1 ページ\)](#)
- [IM アドレッシング方式の前提条件 \(3 ページ\)](#)
- [IM アドレッシングスキームタスクフローの設定 \(3 ページ\)](#)

### IM アドレッシングスキームの概要

IM and Presence Service は、次の 2 種類の IM アドレス指定スキームをサポートしています。

- *UserID@Default\_Domain* は、IM and Presence Service をインストールする場合の、デフォルトの IM アドレススキームです。
- Directory URI IM アドレススキームは、複数のドメイン、ユーザのメールアドレスの調整、および Microsoft SIP URI の調整をサポートしています。

同じ IM アドレススキームをすべての IM and Presence Service クラスタで使用する必要があります。

### User@Default\_Domain を使用している IM アドレス

IM and Presence Service のデフォルトのアドレッシングスキームは *UserID@Default\_Domain* です。

*UserID @ Default\_Domain* IM アドレススキームを使用する場合、すべての IM アドレスは単一のデフォルトの IM ドメインの一部です。デフォルトドメイン値は、すべてのクラスタ全体で一貫している必要があります。なぜなら、IM アドレスは IM and Presence のデフォルトドメインの一部であるため、複数ドメインはサポートされません。

UserID は、フリーフォームまたは LDAP から同期することができます。次のフィールドがサポートされます。

- sAMAccountName
- ユーザプリンシパル名 (UPN)
- 電子メールアドレス

- 従業員番号
- 電話番号

UserID を Cisco Unified Communications Manager の LDAP フィールドにマップする場合、その LDAP マッピングはすべてのクラスタ全体で一貫している必要があります。

ユーザー ID は電子メールアドレスにマッピングできますが、IM URI が電子メールアドレスに等しいという意味ではありません。代わりに、`<email-address>@Default_Domain` となります。たとえば、`amckenzie@example.com @sales-example.com` です。選択した設定をマッピングする Active Directory (AD) は、IM and Presence サービス クラスタ内のすべてのユーザに対してグローバルに適用されます。個々のユーザに対して異なるマッピングを設定することはできません。

## ディレクトリ URI を使用した IM アドレス

ディレクトリ URI のアドレス スキームを使用して、ユーザの IM アドレスを Cisco Unified Communications Manager のディレクトリ URI に合わせます。

ディレクトリ URI の IM アドレス スキームには、次の IM アドレス指定機能があります。

- 複数ドメインのサポート。IM アドレスは、1 つの IM and Presence Service ドメインだけを使用する必要はありません。
- ユーザのメールアドレスの調整。ユーザのメールアドレスと合わせるように Cisco Unified Communications Manager のディレクトリ URI を設定することが可能で、メール、IM、音声、および動画の通信にユーザの ID を一貫して指定できるようになります。
- Microsoft SIP URI の調整。Microsoft SIP URI と合わせるように Cisco Unified Communications Manager のディレクトリ URI を設定することで、Microsoft OCS/Lync から IM and Presence Service への移行時に、ユーザの ID を確実に維持できるようになります。

IM アドレス スキームとしてディレクトリ URI を使用するようノードを設定する場合は、ディレクトリ URI をサポートするクライアントのみを展開することを推奨します。ディレクトリ URI をサポートしないクライアントは、ディレクトリ URI IM アドレス スキームが有効になっている場合は動作しません。ディレクトリ URI をサポートしないクライアントが展開されている場合は、`UserID@Default_Domain` IM アドレス スキームを使用し、ディレクトリ URI IM アドレス スキームは使用しないでください。

ディレクトリ URI IM アドレス設定はグローバルであり、クラスタ内のすべてのユーザに適用されます。クラスタ内の個々のユーザに対して異なるディレクトリ URI IM アドレスを設定できません。

外部 LDAP ディレクトリからディレクトリ URI をプロビジョニングする方法についての詳細は、[LDAP ディレクトリの設定](#)を参照してください。

## 複数の IM ドメイン

IM and Presence Service は、複数の IM アドレス ドメイン全体で IM アドレッシングをサポートし、システム内のすべてのドメインを自動的にリストします。ドメインを追加、編集、または削除できます。IM ドメインの設定については、[ドメイン設定の概要](#)を参照してください。

Cisco Expressway と相互運用する場合は、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/expressway-series/products-maintenance-guides-list.html>の『Cisco Expressway Administrator Guide』を参照してください。

## IM アドレッシング方式の前提条件

IM and Presence Service のデフォルト ドメインと、使用する IM アドレス スキームは、IM and Presence Service クラスタ全体で一貫している必要があります。事前準備、[IM and Presence サービスのデフォルトドメインを設定します](#)。

設定する IM アドレス スキームはすべてのユーザ JID に影響を与え、別の設定を持つ可能性があるクラスタ間での通信を中断せずに段階的に実行することはできません。

展開したクライアントが IM アドレスとしてディレクトリ URI をサポートしない場合は、管理者がディレクトリ URI IM アドレス スキームを無効にする必要があります。

## IM アドレッシングスキーム タスク フローの設定

IM アドレッシングスキームを設定するには、次のタスクを以下の順番で完了します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">ユーザプロビジョニングの検証</a> (4 ページ)	エンドユーザが正しくプロビジョニングされていること、および重複または無効なユーザがないことを確認します。
ステップ 2	<a href="#">ハイ アベイラビリティの無効化</a> (5 ページ)	プレゼンス冗長性グループのハイ アベイラビリティは、一時的に無効にする必要があります。IM アドレッシングスキームを設定するには、サービスを一時的に停止する必要があります。高可用性が有効になっている間にサービスを停止すると、システムのフェイルオーバーが発生します。
ステップ 3	<a href="#">サービスの停止 (Stop Services)</a> (6 ページ)	IM アドレス スキームの設定を更新する前に、基本の IM and Presence Service を

	コマンドまたはアクション	目的
		停止します。必ず所定の順序でサービスを停止してください。
ステップ 4	IM アドレススキームの割り当て (7 ページ)	新しいドメインおよび IM アドレススキームを設定したり、既存のドメインおよびアドレススキームを更新したりするには、次の手順を使用します。
ステップ 5	サービスの再起動 (8 ページ)	IM アドレススキームを設定したら、サービスを再起動します。これは、ユーザアドレス情報を更新したり新規ユーザをプロビジョニングしたりする前に実行する必要があります。必ず所定の順序でサービスを起動してください。
ステップ 6	高可用性を有効にする (9 ページ)	IM アドレッシングスキームを設定し、IM and Presence サービスを再起動した後で、プレゼンス冗長グループの高可用性を有効にできます。すべてのサービスが実行されている必要があります IM とプレゼンス高可用性を有効にする前に、データベースパブリッシュノードとサブスクライバノードを追加してください。
ステップ 7	ディレクトリ URI を IM アドレッシングスキームとして選択すると： <ul style="list-style-type: none"> <li>ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て (10 ページ)</li> <li>Directory URI を手動で割当ます (11 ページ)</li> </ul>	これはオプションです。外部の LDAP ディレクトリからユーザを同期している場合は、ディレクトリの URI 値に LDAP ソースフィールドを設定します。  LDAP 以外のユーザの場合は、ディレクトリ URI を手動でプロビジョニングする必要があります。これは、ユーザ単位または一括管理ツールを使用して実行できます。

## ユーザプロビジョニングの検証

アドレス指定方式を設定する前に、この手順を使用してエンドユーザが正しくプロビジョニングされていることを確認します。

## 手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[診断 (Diagnostics)] > [システムトラブルシューター (System Troubleshooter)] を選択します。  
システムトラブルシューターが実行されます。
- ステップ 2 ユーザトラブルシューターセクションで、エンドユーザが正しくプロビジョニングされていること、および重複または無効なユーザがないことを確認します。

## 次のタスク

[ハイアベイラビリティの無効化 \(5 ページ\)](#)

# ハイアベイラビリティの無効化

クラスタの各プレゼンス冗長グループのハイアベイラビリティの無効化。アドレッシングスキームを編集するには、サービスを一時的に停止する必要があります。ハイアベイラビリティが有効な間にサービスを停止すると、システムのフェールオーバーが行われます。



- (注) [プレゼンス冗長グループの詳細] ページには、クラスタで高可用性が無効になっている場合でも、すべてのアクティブな JSM セッションが表示されます。

## 始める前に

各プレゼンス冗長グループの各クラスタノードに割り当てられたアクティブユーザ数を記録します。この情報は、[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] の [システム (System)] > [プレゼンス トポロジ (Presence Topology)] ウィンドウで見つけることができます。後で高可用性を再度有効にするときにこれらの番号が必要になります。

## 手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration のユーザ インターフェイスから、[システム (System)] > [プレゼンス冗長グループ (Presence Redundancy Groups)] を選択します。
- ステップ 2 検索をクリックしてグループを選択します。
- ステップ 3 [プレゼンス冗長グループの設定 (Presence Redundancy Group Configuration)] ウィンドウで、[ハイアベイラビリティを有効にする (Enable High Availability)] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5 各プレゼンス冗長グループに対してこの手順を繰り返します。

**ステップ 6** 完了したら、さらに変更を加える前に、新しい HA 設定がクラスタ全体にわたって同期されるまで、少なくとも 2 分待機します

---

#### 次のタスク

[サービスの停止 \(Stop Services\)](#) (6 ページ)

## サービスの停止 (Stop Services)

IM アドレススキームの設定を更新する前に、基本の IM and Presence Service を停止します。必ず所定の順序でサービスを停止してください。

#### 始める前に

[ハイアベイラビリティの無効化](#) (5 ページ)

#### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > **コントロールセンター - ネットワーク サービス (Control Center - Network Services)** ] を選択します。
- ステップ 2** 次の IM and Presence Service を停止します。この順序で、サービスを選択し、[停止 (Stop)] ボタンをクリックしてください。
- a) **Cisco Sync Agent**
  - b) **Cisco Client Profile Agent**
- ステップ 3** 両方のサービスが停止したら、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択し、次のサービスをこの順序で停止します。
- a) **Cisco Presence Engine**
  - b) **Cisco SIP Proxy**
- ステップ 4** 両方のサービスが停止したら、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択し、次のサービスを停止します。
- **Cisco XCP Router**
- (注) XCP Router サービスを停止すると、すべての関連 XCP 機能サービスが自動的に停止します。

---

#### 次のタスク

[IM アドレススキームの割り当て](#) (7 ページ)

## IM アドレススキームの割り当て

新しいドメインおよびIMアドレススキームを設定したり、既存のドメインおよびアドレススキームを更新したりするには、次の手順を使用します。



(注) 設定するIMアドレススキームは、必ずすべてのクラスタ間で一致するようにしてください。

始める前に

[サービスの停止 \(Stop Services\)](#) (6 ページ)

手順

**ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] > [詳細設定 (Advanced Configuration)] を選択します。

**ステップ 2** 新しいデフォルトドメインを割り当てるには、[デフォルトドメイン (Default Domain)] チェックボックスにマークを付け、テキストボックスに新しいドメインを入力します。

**ステップ 3** アドレススキームを変更するには、[IM Address Scheme (IM アドレススキーム)] チェックボックスにマークを入れ、ドロップダウンリストボックスから次のいずれかのオプションを選択します。

- [UserID@[Default\_Domain]] - 各IMユーザアドレスは、UserIDからデフォルトドメインとともに取得されます。これがデフォルト設定です。
- [ディレクトリURI (Directory URI)] - 各IMユーザアドレスは、Cisco Unified Communications Managerでそのユーザに関して設定されているディレクトリURIと一致します。

(注) このオプションを選択すると、展開されたすべてのクライアントが、IMアドレスとしてディレクトリURIをサポートし、EDIベースまたはUDSベースのディレクトリ統合を使用する必要があります。JabberとのUDSベースの統合については、Jabberのリリース10.6以降を実行している必要があります。

**ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

ステータス領域の更新進行状況を監視できます。

IMアドレススキームとしてディレクトリURIを選択する場合、展開クライアントが複数ドメインをサポートできることを確認するプロンプトが表示される場合があります。続行するには[OK (OK)] をクリックします。または[取消 (Cancel)] をクリックします。

ユーザが[ディレクトリURI (Directory URI)] 設定を無効にしている場合は、ダイアログボックスが表示されます。続行するには、[OK (OK)] をクリックし、または[取消 (Cancel)] をクリックします。次に、IMアドレススキームを再設定する前にユーザ設定をします。

システム アップデートは完了まで最長で 1 時間かかる場合があります。変更を再適用するには、[再試行 (Re-try)] をクリックします。または [取消 (Cancel)] をクリックします。

### 次のタスク

アドレッシングスキームとして `user @ default_domain` を設定していて、ディレクトリ URI を使用していない場合は、[サービスの再起動 \(8 ページ\)](#) に進みます。

アドレス指定方式としてディレクトリ URI を設定した場合は、次のいずれかのオプションを選択します。

- [ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て \(10 ページ\)](#)
- [Directory URI を手動で割当ます \(11 ページ\)](#)

## IM アドレスの例

IM and Presence サービスで使用可能な IM アドレス オプションの例。

**IM and Presence Service デフォルト ドメイン :** cisco.com

**ユーザ:** John Smith

**ユーザー ID :** js12345

**Mail ID:** jsmith@cisco-sales.com

**SIPURI:** john.smith@webex.com

IM アドレス形式	ディレクトリ URI マッピング	IM アドレス (IM Address)
<userid>@<domain>	適用対象外	js12345@cisco.com
Directory URI	mailid	jsmith@cisco-sales.com
Directory URI	msRTCSIP-PrimaryUserAddress	john.smith@webex.com

## サービスの再起動

IM アドレス スキームを設定したら、サービスを再起動します。これは、ユーザアドレス情報を更新したり新規ユーザーをプロビジョニングしたりする前に実行する必要があります。必ず所定の順序でサービスを起動してください。

### 始める前に

- [IM アドレス スキームの割り当て \(7 ページ\)](#)
- ディレクトリ URI をアドレッシングスキームとして設定した場合は、サービスを再起動する前に次のいずれかのオプションを実行します。



- [ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て \(10 ページ\)](#)
- [Directory URI を手動で割当ます \(11 ページ\)](#)

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロール センター - ネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- ステップ 2** サービスを選択し、[起動 (Start)] ボタンをクリックして、次のサービスを起動します。
- **Cisco XCP Router**
- ステップ 3** サービスが起動したら、[ツール (Tools)] > [コントロール センター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択し、次のサービスをこの順序で起動します。
- a) **Cisco SIP Proxy**
  - b) **Cisco Presence Engine**
- ステップ 4** 次の手順に進む前に、Cisco Presence Engine サービスがすべてのノードで実行中であることを確認します。
- ステップ 5** [ツール (Tools)] > [コントロールセンター - ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択し、次のサービスをこの順序で起動します。
- a) **Cisco Client Profile Agent**
  - b) **Cisco Sync Agent**
- 

## 次のタスク

[高可用性を有効にする \(9 ページ\)](#)

# 高可用性を有効にする

IM アドレス指定方式を設定してサービスを再起動したら、この手順を使用して、クラスタ内の各プレゼンス冗長グループに対して高可用性を再度有効にします

## 始める前に

すべてのサービスが実行されている必要があります IM とプレゼンス高可用性を有効にする前に、データベースパブリッシュノードとサブスクリバノードを追加してください。サービスを再起動してから 30 分以内である場合は、ハイアベイラビリティを再度有効にする前に Cisco Jabber セッションが再作成されたことを確認します。十分な時間を確保しない場合、セッションが作成されていない Jabber クライアントでプレゼンスは機能しません。

Cisco Jabber セッションの数を取得するには、すべてのクラスタノードで `show perf query counter Cisco Presence Engine ActiveJsmSessions` CLI コマンドを実行します。アクティブ

セッションの数は、ハイアベイラビリティを無効にした際に記録したユーザ数と一致するはず  
です。

#### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability) ]  
から、[ツール (Tools) ]>[コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center -  
Network Services) ] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server) ] リストから、サービスを再アクティブ化するノードを選択し、[移動 (Go) ]  
をクリックします。
- ステップ 3** **IM and Presence** サービス領域で、次のサービスを選択します。
- Cisco Client Profile Agent
  - Cisco Sync Agent
  - Cisco XCP Router
- ステップ 4** [再起動 (Restart) ] をクリックします。
- ステップ 5** [関連リンク (Related Links) ] ドロップダウン リストから [サービスのアクティベーション  
(Service Activation) ] を選択し、[移動 (Go) ] をクリックします。
- ステップ 6** **IM and Presence** サービス領域で、次のサービスを選択します。
- Cisco SIP Proxy
  - Cisco Presence Engine
- ステップ 7** [保存 (Save) ] をクリックします。
- 

## ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て

外部 LDAP ディレクトリからユーザを同期している場合は、この手順を使用してディレクトリ  
URI の割り当てに使用される外部 LDAP ディレクトリソースフィールドを割り当てること  
ができます。LDAP ディレクトリの同期が行われると、設定したフィールドの値からディ  
レクトリ URI が割り当てられます。



- (注) 最初の LDAP 同期がすでに発生している場合、Cisco Unified Communications Manager では、LDAP ディレクトリの既存の構成に編集を追加できません。外部 LDAP ディレクトリに追加された新しい項目を同期することはできますが、Cisco Unified Communications Manager で LDAP 設定を編集することはできません。LDAP ディレクトリを既に同期している場合
- 一括管理ツールを使用して、ディレクトリ URI をユーザに割り当てます。詳細については、『*Bulk Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
  - ディレクトリ URI を手動でユーザに割り当てます

#### 始める前に

[IM アドレススキームの割り当て \(7 ページ\)](#)

#### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] を選択します。

**ステップ 2** ディレクトリ URI ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。

- **メール** : ユーザのメールアドレスと合わせるように Directory URI をマップして、メール、IM、音声、および動画の通信にユーザの ID を一貫して指定できるようになります。
- **msRTCSIP-PrimaryUserAddress**: Directory URI を Microsoft OCS/Lync SIP URI にマップします。

(注) LDAP URI が同期されるまで、ディレクトリ URI はプロビジョニングされません。LDAP ディレクトリ同期の設定の詳細については、[LDAP ディレクトリの設定](#)を参照してください。

#### 次のタスク

[サービスの再起動 \(8 ページ\)](#)

## Directory URI を手動で割当ます

LDAP を使用していない場合は、この手順を使用してユーザごとにディレクトリ URI を手動で入力できます。



---

(注) Bulk Administration Tool を使用して、csv ファイルを介して多数のエンドユーザにディレクトリ URI をプロビジョニングすることもできます。一括管理の使用の詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>で『*Bulk Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

LDAP ディレクトリをまだ同期していない場合は、LDAP ディレクトリ同期を介してユーザのディレクトリ URI をプロビジョニングできます。

---

### 始める前に

[IM アドレススキームの割り当て \(7 ページ\)](#)

### 手順

---

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
  - ステップ 2 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
  - ステップ 3 設定したいエンドユーザを選択します。
  - ステップ 4 ユーザ情報エリアで、ディレクトリ URI をディレクトリ URI フィールドに入力します。
  - ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
- 

### 次のタスク

[サービスの再起動 \(8 ページ\)](#)